



松 やさシティ、まつど。

すぐやる課50周年記念式典

【式次第】

- 日時 令和元年10月6日(日) 13時~14時
- 場所 KITE MITE MATSUDO「キテミテマツド」広場

■記念式典

- 1 開式の辞
- 2 市長式辞
- 3 市議会議長挨拶
- 4 感謝状・記念品贈呈
- 5 受賞者挨拶
- 6 閉式の辞

■記念撮影



松戸市「すぐやる課」50年

松戸市すぐやる課50周年記念式典

令和元年10月6日



記念式典で感謝状を受け取った松本南海雄さん(右から4人目)ら=松戸市

市民の要望に迅速に答える松戸市の「すぐやる課」が6日、発足50周年を迎えた。市内で開かれた記念式典で本郷谷健次市長は「課の精神を今後も引き継いでいく」と述べ、全国の自治体で初めて課を創設した故松本清市長らに感謝状を贈った。

すぐやる課は1969年、も増えた。10月6日に発足。市の人口、こうした身近な問題のたが急増した60年代は道路や、らい回しを避け、迅速に解下水道などのインフラ整備、決するため、課が創設されが進む一方、道路・側溝の、課内には松本市長直筆補修や清掃など市民の要望の「すぐやらなければなら

創設の松本元市長らに感謝状

50年間の要望処理件数は15万6千件。現在も年3千件弱が寄せられる。近年は道路や清掃が減る一方、スズメバチの駆除などが年2千件前後に増え、主な業務になっている。

式典で松本市長への感謝状を受け取った、次男でマツモトキョシホールディングス会長の松本南海雄さん



ハチの駆除作業をする、すぐやる課職員ら=松戸市



市役所に掲示されている松本市長直筆の標語

近年はハチ駆除依頼増

移植医療に理解を

千葉市 待機者ら現状紹介



移植医療への理解を深めるイベント「グリーンリボンキャンペーン千葉」が6日、千葉市中央区の千葉ポルトタワーで開かれた。心臓移植体験者と移植待機者の3人がトークショーに臨み、「移植後進国」とされる日本の現状を説明した。

10月の「臓器移植普及推進月間」に合わせ、公益財団法人・千葉ヘルス財団と県が共催した。26年前に米国で心臓移植を受けた木内博文さん(49)＝佐倉市＝は、臓器提供数が日本では100万人あたり0.88人で、米国の33人や韓国の10人と比べ著しく少ない状